

19市町まるごと歩く

県協会

ウォーキング通じ社会貢献

テーマ設定、ふるさと教育

県ウォーキング協会は18日、金沢市の県立生涯学習センターで理事会を開き、10月から2年6カ月間にわたり、「元気カップ 石川まるごとウォーク」(同協会、北國新聞社など主催)を実施することを

了承した。県内19市町でウォーキング大会を開催するほか、教育や環境などをテーマにしたウォークも計画し、県民の健康づくりや、ふるさとの活性化につなげる。

同事業は、全国約1800市町村が参加する日本ウォーキング協会などの「ウォーキング日本1800」の一環として行われる。県内19市町で既存大会をベースに新規コースを創設し、テーマを持ったウォーキング大会を開く。今年度は、

10月3日に珠洲市で「岬自然歩道を歩こう大会」、同4日に輪島市で「漆の里輪島高洲山歩こう大会」を開くことが決まった。同協会では、「これまで歩いていない県民」にも広く参加を呼び掛け、健康づくりへ機運の盛り上がりを図る考えだ。

全国運動「一人1植」にあわせた記念植樹をはじめ、親子の絆や里山保全、歴史、文化探訪、食育などをテーマにした「社会貢献型ウォーク」も計画する。ウォーキングの啓発に向けてシンポ



「石川まるごとウォーク」の事業計画を了承した理事会
—金沢市の県立生涯学習センター

ジウムの実施も予定している。理事会では、北実会長が「地域の健康づくりのみならず、ふるさと教育や環境保全など社会貢献の面でも意義深い事業になる。住民総参加を求めていきたい」とあいさつした。